

地域懇談会実施報告書

地区名	美麻地区
開催日	平成19年10月11日(木)
時間	18:30~20:50
開催場所	美麻福祉センター
参加人数	54人
懇談内容	別添 議事録

質問等後日回答を要するもの

大町市における耐震診断と耐震改修及び融資制度の活用状況(利用者等)、
国民健康保険証の更新時期の違いについて。
美麻千見地区市道への土砂流出について対応。

対応

美麻地区連合自治会へ回答。
わかりやすい文章での周知に努める。
(直接本人への回答は必要ないとのこと)
美麻支所産業建設課で現地確認して対応。

行政側参加者

水道部長 北沢孝一
庶務課長 酒井富雄

美麻支所長 鷺沢孝友
総務課長 佐藤修一
産業建設課長 小林敏文
他美麻支所職員一同
記録者 竹内栄一

美麻地区地域懇談会議事録

【18:30 開始】

1. 開会あいさつ 連合自治会副会長

2. 連合自治会会長あいさつ

平成18年1月1日合併し、22ヶ月経過した。市行政を遠くに感じることなく、身近に感じる必要がある。それが「きらり輝くまちづくり」の原点。市長と直接対面できる絶好の機会、実りある懇談会としたい。

3. 市長あいさつ

地域の皆さんとの直接の意見交換の機会がとても大切だと大事と考える。

昨年までは市内6つの地区毎で地域の自治会長などの各団体の代表の方との意見交換であった。今年の6月から連合自治会の皆さんとの協議により、よりきめ細かな意見交換の場を設けていただく運びとなった。

私自身、昨年7月の市長就任から15ヶ月が過ぎ時代の大きな節目のこの時期に、地域の皆さんとの意見交換により住民の皆さんの要望を的確に受け止め、市の考えを説明し、市民のみなさんの納得を得て行政を進めていくための機会としていきたい。

第4次総合計画について(ダイジェスト版により説明)

「美しく豊かな自然」を地域づくりの根底に据えていく。

「文化の風薫る」「長い歴史と伝統のある文化、今日に生きた文化活動」を地域づくりに活かす。

「きらり輝くおおまち」ひとりひとりの皆さんに笑顔が戻り、地域全体が笑顔輝くまちを目指す。

協働の考えなしには行政は進めて行けないと考えている。

市民参加と協働の懇談会を設け、大町市のめざしていく協働のあり方を検討し市民と共有の理念を持つ原点としたい。

大町市のめざすまちの6のテーマを柱に据えまちづくりを進める。

市政全体、新しい大町市の中で、地域のよさを認め合い地域の一体感を作り出していきたい。

4. 懇談

連合自治会会長

市政運営の基本理念を説明いただいた。これから懇談会にはいる。

出席者

千見地区の弱者代表としてお願いに来た。ふれあいバスのアンケートにあった市営バスの乗り継ぎには反対で、大反対する方は多かった。そのようなことのないよう願っている。生活と密着していることだけに市営バスアンケートの内容は分からないことばかりで不安を感じる。

市長

バスの運行、特に路線の選定についてご意見だが、アンケートの内容は承知していないが、今一番の問題は、路線が美麻地区内をうまく回っていないところにある。

スクールバスとの車両のやりくりがタイトにもなっているので、総合的に検討するためバス利用者や地域の皆さんのお声を聞くためアンケートをしたと思う。

現在検討中であるが、使い勝手が悪くならないように、前より使いやすいバス路線となるようにする。

出席者

バスの待ち時間が多く不便である。運行時刻の設定に配慮してほしい。

市長

ご不便おかけして申し訳なく思う。今回の路線の見直しに併せて、使いやすいダイヤの検討を進めていく。

出席者

昨日の新聞に大町病院の医師が5人から3人に減るとあった。他の開業医と連携して対応していくとあったが、これでは困る。年寄り、安心安全な町であるために、最優先で医師を確保してほしい。

市長

大町病院は、常勤医師20人が280床に対応しており、このうち内科医師が5人で、うち2人より県外の病院へ移りたいと言う申し出がなされている慰留しているが困難な状況にある。

入院ベット数280床のうち内科患者65床あるが、これを30床くらいに縮小。外来でも入院が必要ではない患者は、開業医または診療所で診てもらおうようお願いしている。

年度途中で、後任がなかなか見つからないため、1月から3月までの緊急処置としてやっていく。

医師の確保は、公募に併せ信大へ4月からの後任を求めるとともに、私自身も一緒になって個別に医師探しも行っている。

出席者

どの医師が変わるか教えてほしい。

市長

まだ、正式に辞表が出ていない、辞意が表明されているという段階で慰留中なので公表は

避けたい。

出席者

医師に定年はあるのか。全国的に医師不足のなかで美麻に医師いなくなることが心配。

市長

診療所のご質問で、医師は地方公務員の場合、定年があり、定年延長の手続きを行うことにより68才まで勤務が可能。また、運営委託の形をとれば地方公務員としての身分の拘束はなく、できるだけ長く勤めていただくことは可能になる。美麻は当面心配ないが、医師が欠けるときは後任の医師を確保して、診療所は維持していきたい。

出席者

美麻の大塩に産廃施設に併せて老人ホーム建設の話があり、数回の説明会行われている。当初説明と最近では話が変わってきている。福祉施設は理解できるが産廃施設は容認できない。市長の意見を聞きたい。

市長

老人福祉施設と産廃施設を一体的につくる計画があるという話を、コンサルティング担当の会社から市役所として聞いている。構想自体に良し悪しをいえるものではない。具体的にどのように進めるか事業主体については詳しい情報がないため情報を待っている。賛成反対をいえる段階ではない。法的な手続きを踏んでもらううえで、地域の皆さんに受け入れていただけるようなものでなければならぬと考えている。一般廃棄物は行政が、産廃は民間が担うことになっている。

出席者

当初の説明では、水汚染につながる産廃はやらないが、福祉施設はつくるといった話であった。最近では、全国から集まってくる不燃物を30年がかりで埋めて、その上に福祉施設を建てるという話である。目的が違ふと判断している。

市長

市では、産廃焼却施設と福祉施設がセットと聞いている。不燃物についての話はなかったと思う。市が聞いた時点と違うかもしれないので事業者によく聞いて頂きたいと思う。

出席者

市長には慎重に取り組んでいただきたい。

市長

市に話があれば地域の皆さんが納得できるような取り組みをお願いしていく。県も産廃条例を

作ることをしているが、法律をきちんと遵守していくことが前提である。一般論だが産廃施設建設への市町村の関与は限定的だ。法律の執行面ではきちっと対応していく、そういったことも念頭に置くことも必要。

一般廃棄物は市が処理。産廃の処理は県を超えて広域的な処理が行われており、他の地区から一切ゴミを持ち込むなどというのは無理がある。

出席者

旧美麻村の時代に大塩地区へは産廃を持ち込まないとの取り決めをしているので、念頭に置いて対応してほしい。

市長

過去のことは勉強させてもらうが、情勢適用の原則という考えもあり、過去に決めたことは一切変更できないと言うことではないと思う。厳正に法を遵守することが責務であり、現時点では賛成とも反対とも申し上げられない。

出席者

昭和の合併で、平・常盤・社の支所は5年くらいで廃止してきているが、美麻支所はなくてはならない。どうするのか。

市長

支所をいつまで存続するか、廃止するか現在、方針があるわけではない。合併協議を尊重していくが、行政の効率化から見直しが必要な時期が来るかもしれない。

行政の仕組みを簡素で効率的なものにしていくのが行政の課題となっている。地理的な、社会的環境を無視することもできないので、地域住民の声を反映することが必要だと思う。

出席者

地域出身の職員を支所に1人は残して配属してほしい。大塩には支所職員が1人もいない。行政との連携上不都合である。

水道メーターを地上式から地下式へ変更しており、地下水が高いため地中のメーターボックス内が水浸し、検診できない。

市長

職員の配置換えは一定の期間が必要である。ひんぱんに異動することは仕事や地域にとってもまた、本人にとってもマイナスとなるから、若い職員なら3～4年、管理職なら2年から3年くらいを目途に定着させていきたい。

美麻出身者を美麻支所にだけ配属することはできないが、地域の実情を承知している者を配属する工夫はしていく。

水道部長

合併前の村ではメーター使用料を徴収していたが、大町市ではこの仕組みはなかったため、合併に際してメーター使用料を廃止している。計量法では水道メーターを8年毎に交換するよう定められているため、経費節減対策として、各戸の交換の際に高額な遠隔式を廃して地中式を設置している。メーターボックス内にたまる水はポンプでぬくなどの対応策を考えていきたい。

出席者

3月31日が有効期限の国民健康保険証を交付された。医療制度改革に伴い3月31日までの期限の世帯もあると通知に書いてあるが、後期高齢者の医療改正は承知しているが、私はそれには該当しない。私の知らない国保制度の改正があるのか。

市長

後期高齢者医療制度以外の制度改革ではないと考える。戻ってから調べて回答します。

庶務課長

後期高齢者医療制度開始に伴い、いっせいに保険証を切り換えるために日を揃えているのであろうと思われる。つけてある文章が分かりづらい。市の文章にはわかりにくいものが多い。

市長

保険そのものが変わる訳ではなく、期日を揃えるだけと思われるので調べて回答する。文章について誤解を招く表現であれば、直していくようにしていきたい。市役所からの文書が分かりづらいというご指摘は、分かりやすい文書の作成を心がけているし、今後も努めていきたい。

出席者

美麻のケーブルテレビについて、2012年の地上波デジタル対応はどのようになっているのか。

市長

美麻は早い時期から情報化に取り組んでいる。基地局で設備を更新して、地デジ対応して視聴できるように実施計画に組むよう検討していきたい。

出席者

メンドシーノへの来年の訪問にあたっては、ぜひ市長に同行していただき、交流の成果を実際に見ていただきたい。交流自体も新しい展開を考えている。また、以前からの問題だが、参加する教師は、教育委員会からの指示で職免によるボランティアとしての参加のため、皆不安を持っている。市から解決できるよう働きかけてほしい。

ケーブルテレビについては、難視聴の解消という問題だけで見ないでほしい。ケーブルテレビは地域情報の伝達等、地域振興に非常に寄与していると考えている。

市職員から美麻支所勤務は嫌だというような話を聞くが、市職員が美麻をどう見ているのか。市職員の理解を深めていただき、地域振興の係に力を入れてほしい。住民に力をつけることが大切だと思う。

従前からの課題であるが、解体保存などで、牽き舞台の保存状態が悪い。政教分離の問題もあるが地域の文化としていい形で残せるよう考えていただきたい。

市長

メンドシーノ訪問は、その効果を目の当たりにするよい機会である。友好の礼儀としても早い時期に訪問したほうが良いと考えているが、市長の外国訪問はいろいろな調整もあるのでそのことも勘案し考えたい。

教員の参加については、引率委託はできるが、学校教育でない限り、教師としての責任を求めることはできないので、学校教育の延長としての解決は難しいと思う。

ケーブルテレビを地域づくりに工夫してどんどん活用していただきたい。また、地域内にとどまらず情報を他の地域に出す工夫もしていただきたい。

合併による一体感で、職員の理解が充分ではないのではないかというご心配について、仮にそのような事例があればこの場でお詫びを申し上げたい。悪意はないと思うが、職員の人事異動は、能力、経験、希望等総合的な見地で行っているが、行きたい部署と行たくない部署の希望はそれぞれにあると思う。もし度を越えたことがあれば言ってほしい。

また、これは職員のみならず、市民の皆様全員がそれぞれの地域のよさを尊重しあい、地域の特性のよさを生かしながら一体感を深めていくことが大事だと思う。

お囃子・舞台について、政教分離が原則であり、特定の宗教等に行政は関与できない。有形もしくは無形文化財となれば市、県が関与できる。文献などの史料がなくとも文化財としての判定はできると思うので、文化財として保存の必要性があるものは申し出があれば判定することは可能。地域文化を守ることは地域の個性を磨いていくことになるので行政としても念頭に置いていく。

出席者

耐震診断について、市から自治会に実施希望の調査依頼があった。対象住宅(昭和56年以前建築)の6割ぐらいが希望したが、強度不足を指摘されるのは明白で、補強費用等の問題もあるため、市には提出していない。他の地区での補助制度(費用の2分の1、60万円以内)の利用数と融資制度の利用数と診断による補強が必要とされ対応できない者はどうしているか実例を聞きたい。また、個人の財産への補助は難しいと思うが、限度額の60万円をもう少し上げていただくことはできないのか。

市長

耐震診断希望があればぜひ市につないでほしい。大町市で耐震診断を受けた件数、耐震

改修をしている件数ともまだ少ない。耐震診断と耐震改修をどのぐらいの人が受けているか市の具体的な状況は後日連絡する。個人の資産形成に行政費用を使うのはなかなか難しく、補助率は上げにくい。融資の制度はあるが、融資まで活用して、大規模に改修しようという方はなかなか少なく、多くの方は次に建て替えるときでよいという考えの方のようだ。耐震診断・耐震改修の意義をPRし続けたい。

出席者

オリンピック関連道路として整備された、主要地方道長野大町線の土尻川沿い旧小岩岳荘入口から天狗岩洞門まで区間は冬季にスリップ事故が多いので、トンネル化できないか。

市長

以前、県でトンネルにするという構想はあったが、実際には調査が行われていない。県に要望してきた経過があり、引き続き希望していく。一方市内の県道には未改良箇所も多く整備が急がれる箇所も多い。県も予算が少ない中で順位をつけながら進めている実情である

出席者

市道となっている境の宮の旧県道を、地区の者で草刈り等管理しているが、道路の両脇に流れ出た土砂がたいへんな量で人の手ではどうしようもなく荒れてきている。それについて、支所に話しているが回答がない。

市長

市道であれば、市が責任を持って維持管理する。市道延長は相当な距離になるため、実態としては、人力で無理な場合は市が、身近な部分では市民の皆さんの手を借りるというに従来からお願いしてきているという経過がある。

土砂が道路上に押し出してきているというのは災害のときの話か。

出席者

耕作をやめた畑から、自然に土砂が押し出してきた。側溝も埋まってしまった。

市長

近隣の皆さんの手ではどうしようもなく、重機が必要なものは、支所へご連絡いただきたい。住民の皆さんでできるものは協力をいただきたい。畑の土砂が自然に押し出してきているのであれば、畑の地権者も気をつけていただきたい。結果的に市道の通行の支障が出るのであれば、市が道路管理者として対応する。

支所から検討の結果はきちんと回答するよう徹底したい。

出席者

白馬の飯森地区に予定されているごみ焼却炉について、白馬で反対者多数が署名したと

聞く。計画はそのまま続行するのか、白紙に戻し新たに候補地を探すのか聞きたい。

市長

現在の状況は、白馬飯森地区で 1.5～2ha の候補地を選定したという段階。まだ決定ではない。今後調査をして問題がなければ、地権者の理解を得て進めていくことになる。主として別荘地の皆さんを中心に反対の声が強い反対意見の内容は主として3つ。

排気ガスなどによる健康上の心配。

活断層の近くにあるので地震の時の心配。

候補地選定の経過が不透明。

広域の連合長として説明会で、疑問・質問に対応してきている。

排ガスについては、法律基準を守り、法律基準をさらに超える厳しい排出基準を設け安心できる施設の内容にするという説明をしている。

活断層の所在地、断層からどのくらい離れれば安全か定説はなく、活断層の位置などについて予備的な調査をさせていただきたいとお願いしている。

決定の手順は、大町・小谷・白馬の広域で共同処理する施設を設けることとし、検討委員会で議論し候補地を絞った段階で発表したものであり、複数の候補地を選定しそれぞれアセスメント調査をするのは経費もかかり、候補地として一番適切な場所を一ヶ所に絞って、その経過をきちんと説明して納得をいただき、それから環境アセスメント調査を入れていくほうが良いと判断した。丁寧に誠意を持って更に説明していきたい。

署名について、白馬村住民約 8,000 人のうち約4割の署名で、本人が署名したかどうか等その内容については未確認だが、署名は住民の皆さんのお気持ちの一端として受け止めている。白馬の住民の皆さんのご理解を得るよう努力をしていきたい。

出席者

バスの見直しは現状より良くなると思うが、千見地区は、バス乗換えで10分くらい余分に乗ることとなる。美麻地区での合意形成の手法をどのようにするか課題と思う。

メンドシーノ交流訪問として、市は未来ある子供を育てるという位置づけで事業をする必要があるのではないかと。

ふるさと納税制度は、居住地以外に寄付したものを、住民税から控除という形になるようだが、地域間競争となるが、市はどう考え対応しているか。

山村留学に国が支援するという噂があるが実態はどうか。

市長

バス路線の問題は、全ての地域の意見を反映することは難しいが、できるだけ多くの人の意向に沿うように検討したい。

メンドシーノ交流は行政として考え方を整理していきたい。

ふるさと納税制度は大都市と地方との財源、所得や生活などの財政的、経済的格差を埋めていくため検討されている。地方の財源補填機能としては多くは期待できないと思う。地方の

財政力の格差是正は地方交付税制度が設けられているが、三位一体の改革により地方交付税が圧縮されており、税収が伸びないのに交付税が減少し、是正機能を果たしていない。まず交付税制度を充分機能させるのが正論と考える。大町を応援したいという人を増やすように魅力のある地域づくりを進める必要がある。

山村留学について、20年度から国の新しい施策として、学童に農業の実体験等をさせ教育効果を上げさるという事業を計画されている。小学生に田舎体験を中長期でさせる方針と聞いている。平成20年度は、モデル事業の予算要求がなされているとのことである。来年度の詳細は決まっていないが、大町市は既存の山留をベースに受け皿づくりを検討していく。

連合自治会長

市長のお話たいへん分かりやすかった。

市長

皆で取り組むことがなにより大切で、行政に対する提言、ご意見などをもって参加いただくことが大事と思う。

5. 閉会

【20:50 終了】